

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科
フィールドワーク・インターンシッププログラム 2011 年度 JASSO 派遣報告書

報告者氏名 松下 綾日

平成 23 年度 (入学・編入)

1. 研究課題:

インド映画のグローバル化と人びと

2. 派遣期間:

平成 23 年 10 月 28 日～平成 23 年 12 月 1 日 (35 日間)

3. 今回の派遣により、申請時に自身の目的としてあげた点について得られた知見を述べてください

今回のフィールドワーク派遣では、ハリウッド映画の受け手である、隣国ネパールで調査を行った。ネパールには最新型映画館と従来型映画館が存在し、最新型映画館では、ハリウッド映画とアメリカ映画が上映され、座席・音響などの最新の設備が整えられていた。そのため値段は高く設定されている。一方、従来型映画館ではハリウッド映画とネパール映画、またはネパール語映画のみが上映され、最新型よりも非常に安い値段でみることができる。言葉の面において、ネパールの人びとはハリウッド映画の使用言語であるヒンディー語を難なく解することができるため、字幕は表示されない。また、映画館だけでなく、マイクロバスではハリウッド映画音楽が流れ、テレビではハリウッド映画が日常的に放送されていた。ネパールにおいてハリウッド映画は特別なものではなく、日常生活の一部になっている。次に DVD についてであるが、ハリウッド語映画以上にアメリカ映画が売られていた。現地の人々が DVD を購入する場合は少なく、購入する場合、最新映画を映画館で見ない人が購入する、またはテレビで放送されないようなアメリカ映画を購入するようである。

4. 自身の今後の海外への渡航や留学に向けた課題や展望について

今後の海外の渡航の課題としていくつか挙げられるが、ここでは一点に絞って述べたい。それは、現地語の上達である。それを実感したのは、今回お世話になった方の家に、日本人の友人が来られた時のことである。その日本人の方はネパール語が堪能で、その場は盛り上がり、会話はどんどん進んでいき、私が時間をかけて得た情報、または得ようとしていた情報は短時間のうちに交わされていった。人の心が言葉によって開かれていく瞬間を間近で見て、フィールド調査に最も必要なものだと感じた。今後は、より多くの言葉を覚えて使用し、一般人や映画関係者などのインタビュー調査も行っていきたいと考えている。そのためにも現地語の上達は課題の一つである。

これからどんどん海外へ出ていきたいと考えている。

5. 本プログラムに関して意見をお聞かせください。また、今後どのような留学プログラムがあれば参加したいですか？

本プログラムでは、非常に有意義なフィールド調査を行ってこれた。まず、手続きが多くないため、負担が少なく、フィールド調査に集中することができた。出発前の急な旅程変更にも対応していただき、有難かった。そして、制約が少ないことも、柔軟なフィールド調査を進めることができた一因であった。

署名